

带状疱疹はピリピリした激痛と特徴的な小さな水泡が一つの神経に沿って出てくるウイルス疾患です。(背中の中の神経に沿って出てくる場合、帯のように水泡が広がるのでこの名前があります)。インフルエンザなどの他のウイルスと違ってこの秋口に患者さんが多くなります。

带状疱疹は、herpes zosterという子どもの水疱瘡とおなじウイルスが神経の一部分に潜んでおりそのウイルスが疲労やストレス、免疫抑制のある薬剤の影響などで出現してきます。当院では免疫抑制作用のあるステロイドを使っている方が多いこともありますが、最近若い方に带状疱疹の方が増えています。一般的ウイルスなどに対する免疫は何回もウイルスに接することで免疫力が増強します(boost効果)。例えば小児科や保育園に勤務している人は水疱瘡の子どもに接することが多いため带状疱疹の発症が

少ないと言われています。

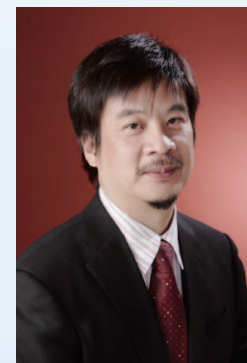
近年は少子化の影響、小児期の予防接種の徹底により水疱瘡の子どもにふれることがあまりないこともあり、自然に子どものころに獲得した免疫は20年程度で低下してくることから20代から30代の方の発症が増えていると考えられます。

带状疱疹は、その時の痛みというより治療が遅れた時に残るピリピリする神経痛が大きな問題になります。带状疱疹は治療薬としての抗ウイルス薬(バルトレックス)が有効ですので皮膚症状は比較的治療しやすいのですが、それにひきつづく神経痛が残っていた場合、麻酔科(今は山梨でもペインクリニックとして標榜される専門の先生方がふえており心強いです)の先生による神経ブロックなどの治療が必要となります。

痛みというより違和感が先にあり皮膚に疱疹のする前にピリピリする感覚が出てくる

ことが多いため、湿布を貼ったためのかぶれと勘違いすることも良くあります。限局した皮膚の疱疹に違和感があった場合はなるべく早く治療を受けることをお勧めします。

また水疱瘡の予防接種とおなじ予防接種が有効ですので、高齢者さらには免疫抑制治療をしている方の場合もちろん保険の適応とはなりません。主治医とご相談の上予防接種を受けることを検討してもよいかもしれません。



にしおか内科
クリニックRA 院長
西岡 雄一

専門分野は関節リウマチ、痛風、気管支喘息、漢方薬治療。地元のファミリードクターとして、一般内科も診察。ラジオドクターとしても活躍中。